

グリー株式会社



ERPをはじめとする社内業務の基盤をハイパーコンバージド インフラに刷新



製品 & サービス

- ・ Cisco HyperFlex システム (Cisco HyperFlex HX240c M4)
- ・ Cisco Unified Computing System (UCS) C シリーズ ラック サーバ (Cisco UCS C240 M4、C220 M4)

課題

- ・ オンプレミスで構築していた ERP に対する、レスポンス改善など社内からの多数の要望への対応
- ・ ERP を設置していたデータセンターのコスト、保守業務の負担削減
- ・ 会社、事業のスケールに応じた、よりパフォーマンスの高い仮想化基盤の構築

ソリューション

- ・ ERP の基盤を仮想化することとし、Cisco HyperFlex システムで構築
- ・ 標準搭載の仮想インターフェイス カード (VIC) により、ネットワーク構成、ケーブリングを飛躍的にシンプル化
- ・ 構築が短期間で終了し、従来よりも徹底した検証作業を実施して、システムの耐障害性の高さを実証

結果～今後

- ・ ERP のほか、すでに仮想化していた社内システムも新基盤へ移行して、より良い社内業務環境を整備

グリー株式会社は、ゲーム事業、メディア事業、広告事業、投資事業を展開しており、「インターネットを通じて、世界をより良くする。」をミッションとした総合インターネット企業です。インターネットという環境に秘められている可能性を 1 つでも多くサービスという形で生み出し、その提供を通じて社会をより自由で効率的にすることを目指しています。

信頼できるメーカーが検証済みなので、難しいことを考える必要がなく、私たちが実現したいと考えていることや本来の業務により多くの時間を割くことができました。

— グリー株式会社 開発本部 情報システム部 IT基盤&オペレーションチーム マネージャー 鈴木 敏之 氏

グリーは社内業務用のシステム環境を、事業規模や会社のスケールに見合うものにすべく、定期的に刷新してきました。独自に構築したプライベート クラウドや、外部サービスのパブリック クラウドも活用して社内業務の基盤を整えています。

課題

2013 年頃に行ったシステム刷新では ERP をオンプレミスの環境で構築し、データセンターに設置していました。しかし、利用時のレスポンスをはじめ社内で問題が指摘され、改善を求める声が多く出ていたと言います。そこで ERP の基盤を刷新するプロジェクトが 2016 年頃にスタートしました。

グリー株式会社 開発本部 情報システム部 IT基盤&オペレーションチーム マネージャーの鈴木敏之氏は次のように話します。

「ERP のシステムを置いていたデータセンターは遠方にあり、保守対応で行き来が大変なこと、お客様向けサービスで利用している他のデータセンターと比べると利用料が割高であることも問題でした。このままでは他のデータセンターへの移設もクラウドへの移行もできないので、まずは仮想化しようと ERP の担当者が検討を進めていたのです。一方、すでに仮想化していた ERP 以外の基盤も刷新のタイミングが近づいてきていました。そこで両方の基盤を 1 つにまとめてデータセンターを移設することにしたのが今回の経緯です。」

グリー株式会社 開発本部 情報システム部 IT基盤&オペレーションチームの上堂 徹氏は、新しい基盤への取り組みを次のように話します。



グリー株式会社
開発本部
情報システム部 IT 基盤&オペレーションチーム
マネージャー
鈴木 敏之 様



グリー株式会社
開発本部
情報システム部 IT 基盤&オペレーションチーム
上堂 薫 様

「先に仮想化していた ERP 以外の部分ではパブリック クラウドへの移行も試していましたが、トラフィックやセキュリティなどの観点も含め、急いでパブリック クラウドへ移す必要はないと考えていました。ERP の基盤を刷新するとサイジングは大きくなるので、そこに既存のプライベートクラウド環境もまとめられればよいと判断しました。各社には、ネットワークを含めてハイパーコンバージドの構成にしたい、長く使うことを念頭にパフォーマンスを高めたい、などの要件を示して提案をお願いしました。」

各社からの提案を受けているときに、シスコから Cisco HyperFlex システムを紹介されたことが今回の採用のきっかけとなりました。価格面の問題もなかったと鈴木氏は言います。

「最初はシスコの価格が高めに見えていましたが、各社の提案の多くにはシステム構築費が含まれていて、見積金額に占める割合も大きかったです。内容を精査するとハードウェアの機能は同等で、シスコのほうが安価という面も見えてきました。コストメリットや性能を含め、これなら社内でも理解を得られると考えて選定を進めました。」

自分たちで構築、運用できることが ハイパーコンバージド インフラの 大きな特長であり、メリットだと思います。

ソリューション

Cisco UCS との組み合わせなど自由度の高いシステム構築が可能

インテル® Xeon® プロセッサを搭載した Cisco HyperFlex システムは、コンピューティング、ストレージ、およびネットワークの各コンポーネントを一体化した「ハイパーコンバージド インフラ」ソリューションです。分単位というきわめて迅速なデプロイメントを可能にし、物理環境と仮想環境のシームレスな管理に対応しています。また、Cisco Unified Computing System (UCS) との混在をはじめ、ハイパーコンバージド製品でありながらシステム構築の自由度が高いことも特長です。今回グリーでは、異なるハイパーバイザを運用する基盤として Cisco HyperFlex システムと Cisco UCS を組み合わせています。上堂氏は今回の要件を踏まえて次のように話します。

「当社のシステム基盤では複数ベンダーのハイパーバイザを利用しています。今回の刷新にあたり、それらを稼働させる環境を皆ハイパーコンバージド構成にしたいと考えました。それに対して、最後までハイパーコンバージド製品を中心としたご提案をいただいたのがシスコでした。Cisco HyperFlex システムはネットワークまで含めた一式で構成されていますが、ネットワークの部分はあまり制限がなく、柔軟に構成することができます。私としても、シスコからのご提案を見て、新しい社内システムの基盤をどのように設計すればよいか、筋書きを作ることができたのは大きかったですね。」

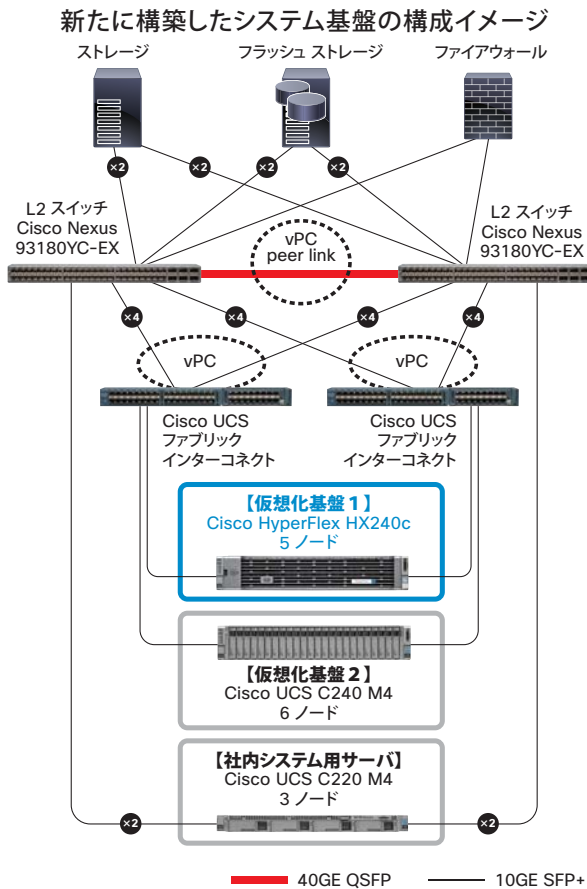
仮想インターフェイスカードでネットワークをシンプルに

Cisco HyperFlex システムは Cisco UCS 仮想インターフェイスカード (VIC) を標準で搭載しています。これにより最大 256 個までの仮想アダプタ (インターフェイス) を提供でき、物理的に接続するケーブルを大幅に削減できます。上堂氏は、ケーブルングが非常に楽になり、ネットワーク構成がシンプルになったことを実感しています。

「他社製品で構築して、必要なケーブルを用意していたら、ものすごい本数になっていたでしょう。それが筐体 1 台あたり 2 本のケーブルだけですみ、簡単につなげられることは、まさにシスコならではの優位性だと思います。」

構築期間が短縮された分を検証期間に充当して耐障害性を実証

今回グリーでは Cisco HyperFlex システムは 2017 年 6 月に導入し、9 月から正式に稼働しています。鈴木氏は、構築は容易で短期間だったことから、より詳細な検証を実施できたと話します。



Cisco HyperFlex システムの主な特長



シンプルさ

- コンピューティング、ストレージ、ネットワークの構成要素を統合
- VMware ESXi を事前インストール済みのため、システムのセットアップが非常に容易
- 管理ツールは VMware vCenter に統合でき、シングルポイントの管理に対応
- クラウド型システム管理サービス Cisco Intersight でマルチサイトの一括管理が可能

柔軟性

- コンピューティングとストレージの構成要素は、利用状況に応じて独立した拡張が可能
- 無停止のローリングアップグレード、ノードの追加、拡張が可能
- インライン重複排除、インライン圧縮などの機能を標準で備え、ストレージの最適化と高効率のリソース運用が可能

経済性

- エンタープライズレベルのデータ保護による TCO の確保
- ローリングアップグレードが可能（データ移行コスト排除）
- シスコのフルサポート、サービスを提供

「社内用のシステムはお客様向けのサービス基盤と比べれば規模は小さく、サーバの台数も少なくなるので、製品自体の堅牢性も重要です。初めて利用する製品ということもあり、他のサーバ構築ではやらないようなハードな障害試験まで行いました。構築そのものも、ハイパーバイザの知識があり、シスコのハンズオンを一度受講すればすぐにできるくらいの簡単さだと感じました。」

上堂 蘭氏は、自身で検証作業を行い、Cisco HyperFlex システムで安心感が大きく高まったことを評価しています。

「本当に冗長構成でサービス停止が起こらないか、どこまでやったら実際に障害が起こるのかを徹底的に突き詰めて、謳い文句に偽りのない耐障害性があることを確認できました。ハイパーコンバージド構成にしたことでストレージの故障という障害点がなくなり、保守の負担も削減されます。」

結果～今後

グリーでは新たな基盤へのシステム移行を 2018 年 1 月に無事完了しました。

新しい基盤ではパフォーマンスが向上し、移行を終えた社内システム（ツール）の中にはレスポンスが 2 倍ほどに向上したものがある他、バックアップ作業や夜間のバッチ処理が高速化するという効果も現れています。

その他の詳細情報

Cisco HyperFlex システムの詳細は www.cisco.com/jp/go/hyperflex を参照してください。

グリー株式会社



本社所在地	東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
創立	2004 年 12 月 7 日
資本金	23 億 3,400 万円 (2017 年 6 月期通期)
業種	インターネットメディア事業 ・ゲーム事業 ・メディア事業 ・広告事業 ・投資事業
従業員数	1,424 人 (グループ全体、2017 年 9 月末現在)
URL	http://corp.gree.net/jp/ja/

グリー株式会社は、ゲーム事業、メディア事業、広告事業、投資事業を展開しており、「インターネットを通じて、世界をより良くする。」をミッションとした総合インターネット企業です。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Celeron、Celeron Inside、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Core Inside、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

©2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は 2018 年 1 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先